

# 震度7、津波の恐怖 被災者の方々の実体験

11月12日(火) 珠洲市の新明周二さん(建交労北信越労職合同支部石川分会副委員長)宅で脇田宗一さん、新谷昇さんの3人からお話を伺いました。

【脇田】1月1日の16時過ぎ、新年の団らんのなか地震が発生し、最初の地震は震度5強で「治まったかな」と思った矢先に震度7の地震がすぐに来て家が壊れました。東日本大震災以来定期的に訓練は行っていました。が、パニックになり防災マニュアル通りには動けませんでした。津波警報



被災時の話をしてくれた新明さん(左)、脇田さん(中)、新谷さん(右)



手つかずとなっている倒壊した家屋=現在の写真



水害により流れてきた流木=現在の写真

【脇田】避難所の生活も大変でした。最初に避難した総合病院は暖かかったですが、体育館は本当に寒かったです。仕切りもなく、しばらくするとテントが支給されました。みんなで正月料理を持ち寄って食べました。最初の2、3日は食料の支給はありませんでした。食料の支給は朝にパン、昼にアルファ米とレトルトカレーだけというのが定番でした。私は避難所生活で8キロ痩せました。他の場所で炊き出しをやっていると聞くのと並びに行きました。避難所にいた私たちは食料

が支給されましたが、自主避難(避難所に行かなかった方たち)の人たちは、「避難所の方以外の人の分はありません」と言われ、食料の支給が受けられませんでした。炊き出しにいつても「どこかの避難所から来たか」と聞かれ、自主避難の人は炊き出しにすら行きづらい雰囲気でした。2月を過ぎた頃から自衛隊が炊き出しや入浴支援に来てくれました。その時は自主避難の人も支給を受けられました。水についても本当に大変で、町会の集会所に水などの物資がそれぞれの

【新明】トイレも本当に困りました。私は当初金沢に避難していました。金沢から戻る際に簡易トイレを買って戻りましたが、公民館で支援物資として簡易トイレは配られていました。物資は常に不足していたので、金沢で買ってきて集会場にみんなで持ち寄りました。また、避難している間に私の家に盗難被害が発生していました。近所の人たちも被害にあつて、パトカーが巡回してくれましたが、東日本大震災でも被災地での窃盗の話は聞きませんでした。ほんとうに許せない話です。

【新谷】私は現在、仮設住宅に住んでいます。解体は公費でできますが、子供たちも珠洲を出ていきました。自分の代だけしか住まないのにお金を借りてまで家を建てるのか答えができません。また、2022年の地震の時以来、農協の地震共済に加入していたので助かりました。感覚的に8割ぐらいの人が地震共済に入っていたのではないのでしょうか。



倒壊した家屋が道路に=現在の写真

【感想】被災された方々には、被災された方々にはどれも直接関係ない税金の使われ方です。困っている人を助けるのが政治ではないのか…

【脇田】私の町(飯田町)は土地が低く、豪雨災害での床下浸水被害が多かったです。また、水害は後始末が大変でした。一度水に浸かった家財道具は二オイが酷く、使い物になりません。また、泥の撤去は本当に大変でした。今回の地震、水害を通して「我々の意見を取り入れた復興を行ってほしい」という願いが一番大きいです。理想を言えば災害前と全く同じ状態に戻って欲しいですが、それが無理なことは解ります。全ての住民の意見を聞いて、その代表者の意見を取り入れた復興計画を自治体や国に行ってもらいたいです。この地に住み続けるのは私たちがすから。

【感想】被災された方々には、被災された方々にはどれも直接関係ない税金の使われ方です。困っている人を助けるのが政治ではないのか…

ちの話をお聞きして、昨年取材した福島の被災地を思い出しました。東日本大震災から13年経ってもアップデートされていない避難所の問題。住民の意向に沿わない何億円もする箱もの重視の復興計画。取材をした能登半島の珠洲市は被災当時のままの建物が未だ多くありました。被災から1年が経過しています。この1年で聞こえてくることは「政治資金パーティー収入の裏金問題」「解散総選挙」「2027年度までに1兆円を超える財源を確保する防衛増税」「費用が膨らみ問題だらけの大阪万博」など。